

11月25日の大江首席交渉官代理による記者会見冒頭発言

19～24日に米国ソルトレイクシティにおいて TPP 首席交渉官会合が開催され、現地時間 24日 21時をもって会議が終了した。今回の会合はラウンドと名付けられていないが、16分野で交渉官会合が行われる大がかりな会合となった。

ソルトレイクシティの会合は、日本が参加したマレーシア会合以降、一番大きな進展があった。こういった国際交渉では最後の最後まで各国はカードを切らず、最終的なまとめモードに入った途端に各国がカードを切り始めるもの。それを期限の5分前になると時計を止めてそこから本当の交渉が始まるというが、そういう意味では、今回の会合では、時計を止めてからのプロセスに入り、まとめのモードに入ったと言える。

大きな進展は主にルール分野で見られ、これまで多くの分野で論点が多すぎた状況であったのが、シンガポール閣僚会合で閣僚に上げる論点がかなり絞られた。裏を返せば、残っている問題は各国とも譲れない分野であり、まだにらみ合いが続いている。物品市場アクセスの他、投資、サービスなど日本が攻める分野についても各国ともにらみ合いが続いているが、総合的には大きな進展があった。これからシンガポール閣僚会合までに各国は連絡を取り合い、またシンガポール閣僚会合の前のバリ WTO 会合にも多くの関係者が行くのでそこでも論点の絞り込みを行い、シンガポールでスリムになった形で閣僚レベルで決着を図ることを目指すこととなる。

物品市場アクセスは、各国にらみ合いが続いているが、日本は11か国全てとバイ交渉を行い、国によっては2回交渉を行い議論を詰めている。

(以上)